

令和元年度 第2回 基幹相談支援センター運営委員会 概要

日 時：令和2年2月25日（火）、13:30～15:10

場 所：札幌市役所 本庁舎地下1階 3号会議室

出席者：11名 運営委員：大下委員、松本氏（重泉委員代理）、荒川委員、

北川委員、木下委員、

（事務局：障がい福祉課2名、ワン・オール4名）

次第

- 1 令和元年度の事業計画について、ワン・オールから中間報告と質疑応答
- 2 ワン・オールの中立性、運営に関する各委員からの意見

扱われた内容（令和元年度事業計画に準じて報告）

- ・個別支援、ケースの傾向等について報告
 - ⇒個別支援の実績と相談の傾向について説明。市外からの転入ケースが増加傾向。
 - ⇒ワン・オールの受ける個別相談の内容について資料説明。
- ・相談支援事業の後方支援⇒『人材育成』と『スキルアップ』研修、共催研修の今年度の実施情報について報告。
- ・「基幹相談支援センター運営業務」のあり方検討について
 - ⇒平成30年度に実施した委託相談支援事業所への訪問調査、全国の政令指定都市にある基幹相談支援センターへのアンケート調査の結果のまとめから、現在の取り組みを行っている内容および今後の活動について報告
- ・計画相談支援の推進業務について
 - ⇒計画相談支援の運営モデルを示していくため、市内指定相談支援事業所の契約件数、モニタリング頻度の確認・分析作業の継続中であることを報告。今後も進めていき、計画相談の量的・質的充実を推進する業務につなげていくことを報告。
- ・精神障がい者地域移行支援事業ピアサポーター活用業務の進捗状況
 - ⇒令和元年度の地域移行の支援の経過や、普及啓発活動について報告。令和2年1月に開催した「地域生活移行研修」についての報告。
- ・札幌市自立支援協議会に関するワン・オールとしての業務
 - ⇒事務局業務および地域部会についての報告。
- ・誰もが住みやすいあしんのまちコーディネーター業務の進捗状況と今後の動きについて
 - ⇒町内会への支援の経過や、支え合い研修実施について報告。

運営委員からの意見

<相談支援業務に関して>

- ・基幹相談支援センターとして、権利擁護に関わるケース支援を大切にしてもらいたい。退院請求にかかわる支援も、医療保護入院をされている方が「退院をしたい」という意思表示をし、権利を行使するということを支援するというのが権利擁護にかかわる支援になるのではないかな。

<相談支援事業の後方支援に関して>

- ・弁護士会との共催研修に就業・生活支援センターが参加することによって、司法の仕組みが学べ、実際に弁護士との関わりも出来た。継続して参加させていただきたい。

<「基幹相談支援センター運營業務」のあり方検討について>

- ・国が示している基幹、委託、指定の相談支援の重層的な関係について、札幌市においても便法上委託相談を基幹相談と読み替えるということもできるかもしれない。しかし、それには指定相談がきちんと根付いていないと難しい。基幹相談支援センターには、相談支援事業所への実践的な関わり・助言が出来る役割を期待している。
- ・基幹相談支援センターが行う業務が多いので、整理・縮小できるところは行ってはどうか？個別ケースの関わりもある一定程度まで整理がついたら、委託相談へ引き継いでいっても良いのではないかな。

<地域相談支援の推進業務について>

- ・ワン・オールで行っている地域移行のピアサポーターと配置事業所のピアサポーターと一緒に実践報告ができればいいのではないかな。
- ・制度の地域移行支援計画や地域定着支援の中でピアサポーターの方が活躍するのを否定するものではない。
- ・ピアサポーターの活動が一部ではなく札幌市全体に広がり、積み上がってほしい。

<札幌市自立支援協議会の事務局業務について>

- ・各区の地域部会について、どの区もワン・オールと連携してきてよかったと思う。
- ・ワン・オールの地域部会との関わり方について、ワン・オールは全体を見渡せる強みがあるが、「事務局」という立場では、やりにくいのではないかと見受けられた。札幌市から「アドバイザー」という役割を付加されると、地域部会の活動推進がやりやすいのではないだろうか。また各区の個別支援主査が代わった時には特に必要となるため、ワン・オールが協議会に関して提供できるメニューがあると良いと思った。

<誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート業務について>

- ・あんしんのまちコーディネート事業に関しては、区社会福祉協議会と連携することによってワン・オールの活動だけで完結しない形となり継続性が出てくるのではないかな。地域福祉は継続性が大切で、その点社会福祉協議会は地域との関わりノウハウも持っているので、連携してもらいたい。
- ・ワン・オールの事業の一つとして、あんしんのまちコーディネート事業だけ少し違って見える。社会福祉協議会が中心に行っても良いのではないかな？

・各区の地域支援員との連携をはかって行けたらよいと思う。地域支援員の活動にとってもチャンスになる。各区の地域支援員の活動にワン・オールが連携していく形にし、地域で事例を募ってそれを「災害に備えた地域での支え合い研修会」で実践報告していくのはどうか。

<その他>

・ワン・オールの業務で大変だと感じる事、みんなで解決していきたい課題等あったら教えていただきたい（質問）

⇒各区の地域部会でも取り組まれている、胆振の災害を受けての防災。

⇒ヘルパー確保にかかわる課題は難しいと感じる。

⇒計画相談のセルフ率が依然として高いということに関しては、セルフプランがゼロになるのが良いわけではないが、どのように進めていくかは札幌市との相談が必要と感じている。

⇒地域移行の体制としては、ピアサポーターの活動自体を国として進める動きもある。何年か先の制度改革にもつながるのかとも感じているので、注視していきたい。

・委託相談から指定相談へのケースの引継の定義については、札幌市とワン・オールで一緒に進めていってほしい（市が調査後の動きがないため）。

・新型コロナウイルスに関する対応、情報共有について

⇒一昨年の胆振東部地震の時に、ワン・オールが各区の委託相談支援事業所の状況について、情報収集・発信・共有をしたが、同じような動きであれば、現状の委託相談が行っている取組の共有、情報収集と発信は出来ると思う。